● 地域の子どもたちに夢と誇りを！ ●

青木繁≪海の幸≫誕生の家と記念碑を保存する会

船田正廣『レリーフ 海の幸』2004 年制作

1904（明治 37）年夏、22 歳の青年画家・青木繁は房州布良の小谷（希録）宅に滞在し≪海の幸≫を描きました。大海原に照りつける熱い陽射し、マグロ延縄漁で活気づいた漁村の風景のなかで描かれたこの絵は、西洋画として日本で最初の重要文化財となりました。

現在、布良・阿由戸の浜には、四角いアーチ型の石柱が立っています。これは、28 歳で逝去した青木繁の没後 50 年を記念して、1962（昭和 37）年の館山ユースホステル開業に伴い、当時の田村利男館山市長をはじめ坂本繁二郎、辻永ら画壇の著名人らが発起人に名を連ね、熱心な募金活動によって建立されたものです。ときが流れ、ユースホステルが廃業となったとき、国有地に立つ記念碑は撤去命令を受けましたが、富崎地区コミュニティ委員会や地元区長らの強い熱意により、記念碑はまもられました。日本を代表する絵画≪海の幸≫を誕生させた漁村の誇りは、子どもたちに伝わり、富崎小学校では今、3つの「あ」の学習を実践しているそうです。～～①アジの開きづくり、②青木繁の調べ学習、③安房節（舟歌）の演奏～～

青木繁が滞在した小谷家住宅は、明治 20 年代の漁村を代表する建造物として価値が高いことが判明し、現在、館山市文化財審議委員会にて市指定文化財に向けて諮問がなされたところです。未来を担う子どもたちに夢と希望をつなぐ文化遺産を後世にのこすべく、「青木繁≪海の幸≫誕生の家と記念碑を保存する会」を設立することとなり、記念の集いを開催することといたしました。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

設立記念の集い

２００８年９月２８日（日）　午後１時半～３時半

会場：館山市立富崎小学校 体育館　　参加費無料

（カンパ大歓迎！）

① 「保存する会」設立の経緯紹介

② 青木繁≪海の幸≫から 100 年目の≪海の幸≫
　　彫　刻　家　　船田 正廣 氏

③ 文化財としての小谷家住宅～青木繁≪海の幸≫誕生の家
　　安房地域文化史研究会会長　　天野　努 氏

④ 地域の皆さんによる歌や踊り、語り部など披露

事務局：ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム
0470-22-8271　090-6479-3498　awabunka@awa.or.jp

青木繁が滞在した小谷家住宅は、明治20年代の漁村を代表する歴史的文化遺産です。《海の幸》はここで誕生しました。

青木繁没後50年に建てられた記念碑の設計者・生田勉（東大教授）は、現代建築の第一人者であり、親友立原道造の詩「石柱の歌」にヒントを得て着想したという。
国有地の貸借問題に関連して記念碑の撤去命令が起きたが、住民の保存運動によってまもられた。

青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

http://aoki-shigeru.awa.jp/